

平成31年度

熊本県立八代中学校

シラバス（第1学年）



目 次

国語	2
社会	4
数学	6
理科	8
音楽	10
美術	11
保健体育	12
技術分野	14
家庭分野	16
英語	18

教 科	国語	科 目	国語	学 年	1	類 型	
単位数	4	教科書	東京書籍 新編新しい国語 1				
副教材	増補版国語便覧熊本県版、基礎の学習 1、常用漢字ダブルクリア、中1徹底演習テキスト国語						

学習目標	・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力や創造力を養い言語感覚を豊かにする。 ・国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価		
			A	B	C
1 学期	風の五線譜	・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。	☐	☐	☐
	話し方はどうかな	・話し方について知り、声に出して文章を読む。	☐	☐	☐
	詩の心ー発見の喜び	・言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わう。	☐	☐	☐
	鮮やかに表現する	・詩を鑑賞して、自分のものの見方を広げる。	☐	☐	☐
	小さな発見を詩にしよう	・言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げる。	☐	☐	☐
	音声の働きや仕組み	・音声の働きや仕組みについて理解する。	☐	☐	☐
	文法とは・言葉の単位	・言葉の単位について学ぶ。	☐	☐	☐
	活字と下記文字・画数・筆順	・活字と下記文字の違い、画数、筆順について理解する。	☐	☐	☐
	飛べ かもめ	・場面の様子や登場人物の思いに注意して、読み味わう。	☐	☐	☐
	さんちき	・想像を膨らませ、ものの見方を広げる。	☐	☐	☐
	質問する	・相手の考えをよりよく理解するために、的確な質問を考える。	☐	☐	☐
	会話が弾む質問をしよう	・話の内容が深まるような、よりよい質問をする。	☐	☐	☐
	つなが言葉・指し示す言葉	・つなが言葉や指し示す言葉の働きについて理解する。	☐	☐	☐
	オオカミを見る目	・段落の役割や、段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。	☐	☐	☐
2 学期	構成を考えて書こう	・筆者の書き方について、自分の考えを持つ。	☐	☐	☐
	ー「私」の説明文	・普段の生活を振り返り、書くための材料を集め、伝える内容を考える。	☐	☐	☐
	碑	・読書に親しみ、いろいろなものの見方、考え方にふれる。	☐	☐	☐
	分類する	・情報を的確に分類する。	☐	☐	☐
	文の成分・連文節	・文の成分や、連文節、文節の関係について理解する。	☐	☐	☐
	音読み・訓読み	・漢字の音読みと訓読みについて理解する。	☐	☐	☐
	暑中見舞いを書こう	・目的や必要に応じた筆記用具を選択し、暑中見舞いを書く。	☐	☐	☐
	スズメは本当に減っているか	・事実と筆者の考えとを読み分けながら、文章の展開を捉える。	☐	☐	☐
	事実と考えを区別する。	・文章の内容や、筆者のものの見方、考え方について、感想や考えを持つ。	☐	☐	☐
	根拠を明確にして書こうー意見文	・事実と考えを区別したり、考えの根拠に注目したりする。	☐	☐	☐
	順序立てて説明する	・説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して意見を書く。	☐	☐	☐
	具体例を挙げて伝えよう	・情報を整理し、順序立てて分かりやすく説明する。	☐	☐	☐
	単語の分類	・具体例を取り入れ、順序立てて話を組み立てる。	☐	☐	☐
	漢字の部首	・単語の分類の仕方について理解する。	☐	☐	☐
	月夜の浜辺	・漢字の部首やその意味について理解する。	☐	☐	☐
		・詩の中の言葉から情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。	☐	☐	☐

	古典の世界	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知り、興味や関心を持つ。	☐ ☐ ☐
	伊曾保物語	・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文の読み方に慣れる。	☐ ☐ ☐
	竹取物語	・古典の作品に描かれた人間の心のありようについて考える。	☐ ☐ ☐
	矛盾	・訓読に必要な決まりを知り、漢文特有のリズムを味わう。	☐ ☐ ☐
	案内や報告の文章を書こう	・必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。	☐ ☐ ☐
	名詞	・名詞の種類について理解する。	☐ ☐ ☐
	少年の日の思い出	・自分や情景描写に着目して、主題を考える。	☐ ☐ ☐
	脈を捉え、伏線に気づく	・構成の工夫について、自分の考えを持つ。	☐ ☐ ☐
	語の意味と文脈・多義語	・登場人物や場面の展開に注意して、文脈を捉え、伏線に気づく。	☐ ☐ ☐
	語の意味と文脈・多義語	・語のさまざまな意味や、文脈の働き、多義語について理解する。	☐ ☐ ☐
	集まって住む	・目的に合った本を探し、必要な情報を読み取ってまとめる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	ニュースの見方を考えよう	・情報への接し方と情報の用い方を身につける。	☐ ☐ ☐
	学校新聞の記事を書こう	・図表を用いて情報を効果的に伝える。	☐ ☐ ☐
	話し合いで理解を深めよう	・本や映画の感想を書くことを通して、自分の思いを伝える表現力を養う。	☐ ☐ ☐
	作品のよさを表現しよう	・詩に表れているものの見方を捉え、自分の考え方を広くする。	☐ ☐ ☐
	名づけられた葉	・情景描写などの表現の効果について考える。	☐ ☐ ☐
	トロッコ	・漢字の成り立ちについて理解する。	☐ ☐ ☐
	漢字の成り立ち	・単語の類別について理解する。	☐ ☐ ☐
	連体詞・副詞・接続詞		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	【授業の進め方やポイント】 ○教科書をよく読んで内容の理解に努める。 ○音読に積極的に取り組む。 ○授業ノートはただ板書を写すだけではなく、疑問や考えなどを積極的に記入する。 ○配られたプリントはフラットファイルに綴じ、整理すると共に自分の考えを記入する。 ○文章の内容を自分の問題として考え、自分の意見や考えを持つようにする。自分の考えを述べる発言で表現力を伸ばす。 ○感想や疑問をしっかりと出し合い、他者の発言に耳を傾ける。そして、自分との共通点や相違点を理解し、考えを深める。
	【家庭学習の進め方やポイント】 ○新しい単元に入るときは、新出漢字と語句の確認をする。（「基礎の学習1」や辞書の活用） ○授業の後は授業ノートやプリントを見直すなどの復習をする。（「基礎の学習1」の活用） ○出された課題や宿題は必ずする。 ○漢字テストで満点が取れるように、毎日の漢字練習を続ける。 ○習った漢字や語句は何度も練習し、定着させる。 ○自分の使える言葉や漢字を増やすために、ふだんから沢山の文章（新聞等）を読み、分からない言葉や漢字は調べる習慣を身につける。辞書を引くことをおっくうに考えないようにする。

評価方法	【国語への関心・意欲・態度】 授業中の様子、漢字テスト、課題の提出状況、定期テスト、発表 【聞く・話す能力】 定期テスト、小テスト、授業時の課題の状況など 【書く能力】 定期テスト、小テスト、授業時の課題の状況など 【読む能力】 定期テスト小テスト、授業時の課題の状況など 【言語事項】 定期テスト、漢字テスト、小テスト、書写作品など
------	--

教 科	社会	科 目	社会	学 年	1	類 型	
単位数	3	教科書	中学社会 歴史（教育出版） 中学生の地理（帝国書院）中学校社会科地図（帝国書院）				
副教材	みつけよう？と！歴史資料（とうほう） 社会の自主学習 歴史1（新学社） ウィニング歴史Ⅰ 社会の自主学習 地理世界（新学社） ウィニング地理Ⅰ						

学習目標	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達記評価 A B C
1 学 期	【地理的分野】 第1章 私たちの地球と世界の地域構成	・地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国の名称と位置、地域区分について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 人々の生活と環境	・大まかな世界地図が描けるようになる。	☐ ☐ ☐
	【歴史的分野】 第1章 歴史の移り変わりを考えよう	・世界各地における人々の生活の様子について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 原始・古代の日本と世界	・歴史を学ぶ意義を高め、年代の表し方や時代区分について理解する。	☐ ☐ ☐
	1 人類の出現と文明のおこり	・世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化について理解する。	☐ ☐ ☐
	2 日本の成り立ちと倭の王権	・大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりについて理解する。	☐ ☐ ☐
	3 大帝国の出現と律令国家の形成	・律令国家の確立にいたるまでの過程について、聖徳太子の政治、大化の改新などを通して理解する。	☐ ☐ ☐
	4 貴族社会の発展	・摂関政治や国風文化の発達について理解する。	☐ ☐ ☐
	【地理的分野】 第3章 世界の諸地域	・人口が急増し、多様な民族・文化が存在することを通してアジアの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	1 アジアの多様性と経済発展	・E Uの発展と地域間格差を通してヨーロッパの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	2 アフリカの人々の暮らしとその変化	・モノカルチャー経済下における人々の生活を通してアフリカの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	3 統合を強めるヨーロッパの国々	大規模農業と工業の発展を通して北アメリカの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	4 世界に大きな影響力をもつ北アメリカ		
	【歴史的分野】 第3章 中世の日本と世界	・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりがあったことについて理解する。	☐ ☐ ☐
	1 世界の動きと武家政治のはじまり	・元寇、南北朝の動乱、応仁の乱などを通して、幕府支配の動揺を捉え、各地に戦乱が広まる中で地方武士が力を強めたことを理解する。	☐ ☐ ☐
	2 ゆれ動く武家政治と社会		

3 学 期	【地理的分野】	・森林破壊と環境保全を通して南アメリカの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	第3章 世界の諸地域		
	5 南アメリカの開発と環境	・アジア諸国との結びつきを通してオセアニアの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	6 他地域と結びつくオセアニア	・世界の地理的認識を深め、世界の様々な地域または国の調査を行う際の視点や方法を身に付ける。	☐ ☐ ☐
	第4章 世界のさまざまな地域の調査	・戦国の動乱、ヨーロッパ人の来航とその背景について新航路の開拓や宗教改革とのかかわりを理解する。	☐ ☐ ☐
	【歴史的分野】	・織田信長と豊臣秀吉の統一事業について理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 近世の日本と世界	・江戸幕府の成立と大名統制について、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付く。	☐ ☐ ☐
	1 結びつく世界との出会い		
	2 天下統一への歩み	・鎖国下の対外関係について、長崎、対馬、薩摩、蝦夷地を通じてオランダ、中国、朝鮮、琉球王国、アイヌ民族との交易がおこなわれたことを理解する。	☐ ☐ ☐
	3 幕藩体制の確立と鎖国		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	日頃から新聞やニュースを見ておいてください。授業はプリントを中心に授業を進めていきます。ノートに貼って整理してください。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。副教材の問題集を週末の宿題として出します。
------	---

評価方法	①関心・意欲・態度…学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。 ②思考・判断・表現…教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③資料活用の技能…年表や歴史、地図など様々な資料を収集し、必要な情報を適切に選択し活用することができる。 ④知識・理解…学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。 以上4つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	数学	科 目	数学	学 年	1	類 型	
単位数	5	教科書	数研出版 改訂版 数研出版 改訂版	中学校 中学校	数学 1 数学 2		
副教材	数研出版	体系数学 1	代数編				
	数研出版	体系数学 1	幾何編				
	数研出版	体系問題集	数学 1	代数編	標準		
	数研出版	体系問題集	数学 1	幾何編	標準		

学習目標	年間を通して、以下の能力を養う。 ○正・負の数や文字式の計算、一次方程式・不等式の解き方を理解しそれらを用いる能力 ○比例・反比例、一次関数の理解を深め、関数関係を見だし活用する能力 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を見だし活用する能力 ○目的に応じて資料を整理・活用する能力 ○平面図形や空間図形を論理的に考察し表現できる能力 ○将来の八代高校生として、大学入試に対応できる能力（→応用問題で扱う）
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	第1章 正の数と負の数	【体系数学1 代数編】	
	1 正の数と負の数	○負の数の意味を理解し、その必要性和有用性を知る。	☐ ☐ ☐
	2 加法と減法	○正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算ができる。	☐ ☐ ☐
	3 乗法と除法	○数の概念について理解を深める。	☐ ☐ ☐
	4 四則の混じった計算	○文字を使って、数量や計算法則を式にしたりして、文字式の意味について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 式の計算	○文字式の表し方を理解し、式をつくったり、表された式の意味を読み取ったりことができる。	☐ ☐ ☐
	1 文字式	○簡単な単項式、多項式での加法、減法の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	2 多項式の計算	○簡単な多項式に数をかけることやわることができる。	☐ ☐ ☐
	3 単項式の乗法と除法	○単項式どうしの乗法、除法の計算ができる。	☐ ☐ ☐
	4 文字式の利用	○文字に値を代入して式の値を求めることができる。	☐ ☐ ☐
		○式を用いて整数の性質を説明したり、規則的に変化する量を、文字式を用いて表したりすることができる。	☐ ☐ ☐
	第3章 方程式	○一元一次方程式の解法を理解し、その解法に習熟する。	☐ ☐ ☐
2 学期	1 方程式とその解	○方程式を利用して問題解決ができる。	☐ ☐ ☐
	2 1次方程式の解き方	○2つの文字を含む等式から文字の値が求められることを知る。	☐ ☐ ☐
	3 1次方程式の利用	○連立方程式とその解の意味を理解する。また、その解法を理解し、習熟する。	☐ ☐ ☐
	4 連立方程式	○連立方程式を問題解決に利用することができる。	☐ ☐ ☐
	5 連立方程式の利用	○数量の間の関係を不等式に表し、不等式とその解の意味を理解する。	☐ ☐ ☐
	第4章 不等式	○一次不等式の解法を理解し、その解法に習熟する。	☐ ☐ ☐
	1 不等式の性質	○不等式を利用して問題解決ができる。	☐ ☐ ☐
	2 不等式の解き方	○連立不等式とその解の意味を理解する。また、その解法を理解し、習熟する。	☐ ☐ ☐
	3 不等式の利用	○関数の意味や用語を理解し、使えることができる。	☐ ☐ ☐
	4 連立不等式	○比例の意味を理解し、式、グラフの特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
		○反比例の意味を理解し、式、グラフの特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
		○比例、反比例の見方や考え方を、具体的な事象の考察に活用できる。	☐ ☐ ☐
2 学期	第5章 1次関数	○1次関数の意味とその特徴を理解する。	☐ ☐ ☐
	1 変化と関数	○直線が与えられているとき、その式が求められる。	☐ ☐ ☐
	2 比例とそのグラフ	○1次関数のグラフと2元1次方程式のグラフとの関係や連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。	☐ ☐ ☐
	3 反比例とそのグラフ	○具体的な事象を1次関数と見なし、それを問題解決に利用	☐ ☐ ☐
	4 比例・反比例の利用		
	5 1次関数のそのグラフ		
	6 1次関数と方程式		
	7 1次関数の利用		

		することができる。	
	第6章 資料の整理と活用 1 資料の整理 2 代表と散らばり 3 近似値と誤差	○ヒストグラムや代表値の必要性和意味を知る。 ○ヒストグラムや代表値を用いて、資料の傾向を読み取ることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第1章 平面図形 1 平面図形の基礎 2 対称な図形 3 図形の移動 4 作図 5 面積と長さ	【体系数学1 幾何編】 ○直線、線分、角の意味や表し方を理解する。 ○線対称、点対称な図形の意味とそれらの性質について理解する。 ○平行移動、対称移動、回転移動の意味とそれらの性質について理解する。 ○基本的な作図のしかたについて理解する。 ○三角形や四角形的面積の求め方を確認する。 ○中心角と弧の関係について理解し、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第2章 空間図形 1 いろいろな立体 2 空間における平面と直線 3 立体のいろいろな見方 4 立体の表面積と体積	○柱体や錐体、多面体について、その性質を理解する。 ○空間における平面や直線の位置関係を理解する。 ○平面図形や直線が動いたときにできる立体とその性質について理解する。 ○立体の投影図や展開図について理解し、立体についての見方を深める。 ○柱体や錐体の表面積や体積とその求め方について理解する。 ○球の表面積と体積を理解し、求めることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 図形の性質と合同 1 平行線と角 2 三角形の合同 3 証明	○対頂角の性質、平行線と角の関係について調べる。 ○三角形の内角の和について調べ、それらをもとに多角形の角について調べる。 ○合同な図形の性質、三角形の合同条件などを明らかにする。 ○「証明」することの意義としくみについて理解する。 ○平行線と角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方や図形の性質の調べ方について理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第4章 三角形と四角形 1 三角形 2 四角形	○三角形の合同条件を使って、図形の性質の調べ方を理解する。 ○直角三角形の合同条件を導き、その使い方を理解する。 ○平行四辺形の性質や平行四辺形になる条件、他の四角形の性質、平行線による等積変形などについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	まず予習として、練習や例題を解いて授業に臨みます。授業では、内容を理解することを重視し、ただ板書を写すことにならないよう気をつけます。具体的には、予習で理解が十分でなかったところや別解などをノートの余白部分に書きます。復習として毎日担当者から課される日々の演習を行います。また、週末には課題を解きます。加えて、定期考査以外にも小テストを行って、到達状況を確認します。
------	---

評価方法	【関心・意欲・態度】【見方考え方】【数学的な技能】【知識・理解】の4つ観点について評価を行う。中間テスト・期末テスト・実力テスト・単元テスト・提出物・出席状況・日頃の授業態度などで、総合的に評価を行う。
------	---

教 科	理科	科 目	理科	学 年	1	類 型	
単位数	3	教科書	未来へひろがるサイエンス1（啓林館）				
副教材	県版 理科問題集（暁） 理科ノート（新学社） 観点別評価プリント（新学社） 理科資料集（暁） ウイニング						

学習目標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度評価 A B C
1 学 期	植物のくらしとなかま 花という「いきもの」 1章 花のつくりとはたらき 2章 水や栄養分を運ぶしくみ 3章 栄養分をつくるしくみ 4章 植物のなかま分け 世界最大の花・世界最小の花	1 花のつくりの観察を行い、その観察記録に基づいて、花のつくりの基本的な特徴を見いだすとともに、それらを花の働きと関連付けてとらえることができる。 2 葉、茎、根のつくりの観察を行い、その観察記録に基づいて、葉、茎、根のつくりの基本的な特徴を見いだすとともに、それらを光合成、呼吸、蒸散と関連付けてとらえることができる。 3 花や葉、根、茎の観察記録に基づいて、それらを相互に関連付けて観察し、植物が体のつくりの特徴に基づいて分類できることを見いだすとともに、植物の種類を知る方法を身に付ける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	身のまわりの物質 窓に利用されるもの 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質	1 身の周りの物質の性質を様々な方法で調べ、物質には密度や加熱したときの変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだすとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付ける。 2 気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を見いだすとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。	 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化 海水から真水をつくる	3 物質が水に溶ける様子の観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いだすこと。 4 水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けてとらえる。 5 物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだす。 6 物質の状態が変化するときの温度の測定を行い、物質は融点や沸点を境に状態が変化することや沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだす。	 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	光・音・力による現象 身のまわりには、どのようなしくみがかくされているのだろうか 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象	1 光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだすこと。 2 凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を見いだすこと。 3 音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さ	 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

	【追】2力がつり合う条件 光・音・力と科学技術	や大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだす。 4 物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだすとともに、力は大きさと向きによって表されることを知る。 5 圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだすこと。また、大気圧の実験を行い、その結果を水や空気の重さと関連付けてとらえる。 6 実験を通して、力がつり合うときの条件や力の合成と分解についてその規則性を理解する。	□ □ □ □ □ □ □ □ □
3学期	活きている地球 地球内部の謎にせまる 1章 大地がゆれる 2章 大地が火をふく 【追】自然の恵みと火山災害・地震災害 3章 大地は語る 堆積物から過去の津波にせまる	1 地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解する。 2 火山の形、活動の様子を及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえる。 3 野外観察などを行い、観察記録を基に、地層の向き方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定すること。	□ □ □ □ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業は観察や実験を中心に授業を進めていきます。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。授業終了後、副教材の問題集を使ってしっかり復習しておきましょう。
------	--

評価方法	①関心・意欲・態度…学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。 提出物を忘れずに提出することができている。 ②思考・表現…教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③技能…教科書に書かれた実験手順を基に実験を行うことができている。正しく実験器具を使用することができている。 ④知識・理解…学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。 以上4つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	--

教 科	音楽	科 目	音楽	学 年	1	類 型	
単位数	1. 3	教科書	中学生の音楽1 中学生の器楽（教育芸術社）				
副教材	県版 音楽ノート						

学習目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
------	---

○歌唱 ◇器楽 ◎鑑賞 ●創作

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	明るい歌声を響かせよう ○校歌「道」 曲の構成や響きを感じ取って 演奏しよう ◇●「主は冷たい土の中に」 ○◇「エーデルワイス」 音楽の特徴から 情景を表現しよう ◎「春 ー第1楽章ー」	- 自分の持っている歌声を見つけ、拍の流れにのって明るい声で歌う - 音名、音階、音符、休符、記号の名前 - 旋律のまとまりやハーモニーの変化を感じながら演奏する - リコーダーの響きを味わいながら、曲想（3拍子やフレーズ）を感じ取り、表現を工夫して演奏する - 音楽の特徴を理解し、楽曲のよさや美しさを味わったり情景を想像したりしながら聴く - 曲想の変化を感じ取り、言葉で説明する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	パートの役割、旋律の重なり を感じ取って合唱しよう ○指揮をしてみよう！ ○「課題曲」「自由曲」 よさや美しさをと感じ取って、表現 方法を工夫しよう ○◎「浜辺の歌」「赤とんぼ」 詩と音楽のかかわり ◎「魔王」	- 指揮をするときのポイントをつかむ - へ音譜表の読み方を覚えて、混声合唱を楽しむ - 合唱の響きを感じながら、仲間といっしょに表現を工夫して表情豊かに歌う - 歌詞の内容や曲想から日本の歌のもつ情緒を感じ取る - 情景を思い浮かべながら、工夫して表情豊かに歌う - 詩の内容と曲想とのかかわりを感じ取る、言葉で説明する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	日本の伝統音楽の魅力 ◇◎箏曲「さくらさくら」 卒業式に向けて ○大切なもの	- 箏の特徴と基礎的な奏法を身に付ける - 日本伝統音楽に親しみ、よさを味わう - 曲想や魅力を生かして、卒業式に向け表現を工夫しながら合唱する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	表現領域（「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野）、鑑賞領域で学習を進めていきます。実技を伴う授業です。真剣にそして積極的に取り組みましょう。また授業を通して音楽に限らず、文化というものまで学習していきます。自分の財産となる素晴らしい作品に出会う時間になしてください。
------	---

評価方法	【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】【鑑賞の能力】の4つの観点について評価する。日頃の授業や実技テスト、ノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	--

教 科	美術	科 目	美術	学 年	1	類 型	全
単位数	1. 3	教科書	美術1 出会いと広がり（日本文教出版）				
副教材	美術資料						

学習目標	○主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ○対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。 ○自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	出会って広げよう	・作品の鑑賞を通して、作者の個性をつかみ、表現されている内容を素直に味わう。	☐ ☐ ☐
	色を学ぶ	・色彩のよさや美しさに気づき、その性質や感情への影響について理解し、効果を工夫して用いる。色相環や色の性質について基礎的な事項を学習する	☐ ☐ ☐
	文字や形で伝える	・伝えたい内容や使う場面、場所などを考え、目的に応じて形や色を工夫し、楽しい文字、美しい文字をデザインする。	☐ ☐ ☐
2 学 期	版のよさを生かして	・自然や身近なものを深く観察し、版の特色や効果などを考え、意図に応じた表現方法を工夫して表す。	☐ ☐ ☐
	心に残る情景	・生活の中で印象に残っている場面を思い出し見る人に伝わるように豊かに発想する。	☐ ☐ ☐
	使いやすさを求めて	・人々が楽しく心豊かに生活することのできるデザインとはどのようなものか考え理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	動く絵の楽しさ	・アニメーションの原理を知り、絵や立体の形・色の変化や動きの面白さを生かした表現をする。	☐ ☐ ☐
	楽しく伝える	・見た人が楽しくなる様な、デザインを構想する。	☐ ☐ ☐
	見る・感じる・作る	・主観的な思いを大切にし、それに応じた形のデフォルメや色彩の使用に幅と柔軟性を持たせる。	☐ ☐ ☐

学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしてください。また、自分の純粋な発想を大切に、計画的に制作を進め見通しを持って取り組んでください。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養いましょう。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていきましょう。
------	---

評価方法	① 関心・意欲・態度 ②発想や構想の能力 ③創造的な技能 ④鑑賞の能力 の4つの観点より評価を行う。題材によっては、2つの観点や3つの観点からのみ評価を行う場合もある。
------	---

教 科	保健体育	科 目	保健体育	学 年	1	類 型	
単位数	3	教科書	大修館書店				
副教材	ステップアップ中学体育 中学校保健体育ノート						

学習目標	健康や運動に関心を持ち、主体的に運動に親しむことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、基礎体力の向上及びたくましい精神を培う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	体づくり運動	・自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた課題をもって運動を行うことができる。集団行動やラジオ体操第2ができる。	☐ ☐ ☐
	陸上競技(短距離・リレー・幅跳び)	・クラウチングスタートからのスムーズな加速走や、タイミングを合わせたバトンパスでリレーを楽しむことができる。記録の向上や競争の楽しさ、喜びを味わいながら、基本的な動きを身につける。	☐ ☐ ☐
	保健(体の発達)	・思春期における心身の機能の発達の特徴や心の健康について理解する。	☐ ☐ ☐
	水泳	・手と足の動作や呼吸のタイミング、バランスをとって泳ぐことができる。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐ ☐ ☐
	球技(ゴール型) サッカー・ハンドボール	・基本技能となるボール操作やボールを持たない時の動作を身につけ、簡単なルールでゲームを楽しむ。	☐ ☐ ☐
	ダンス(現代的なリズムのダンス ・創作ダンス)	・リズムに乗って全身ではずんで踊る。 ・テーマから表したいイメージをとらえ、適した動きで踊る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	陸上競技(長距離走)	・自己の能力に応じて長い距離をより速くはしることができる。	☐ ☐ ☐
	保健(心の発達)	・思春期における心身の発達の特徴や心の健康について理解する。	☐ ☐ ☐
3 学 期	器械運動(マット運動)	・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかにできるようになり、技を組み合わせて発表する。	☐ ☐ ☐
	球技(ゴール型:バスケットボール)	・基本技能となるボール操作やボールを持たない時の動作を身につけ、簡単なルールでゲームを楽しむ。	☐ ☐ ☐
	体育理論	・運動やスポーツの必要性や楽しさ、かかわり方や学び方を理解する。	☐ ☐ ☐
	保健(健康な生活と病気の予防)	・人間の健康は、主体と環境が関わりあって成り立つこと。その要因には適切な対策があることを理解することができる。	☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	★実技の時間は、チャイムですぐに始めることができるように集合場所で整列して待ちましょう。 ★挨拶や返事は大きな声で行い、きびきびとした集団行動を心がけましょう。 ★学習シートはその日のうちに書いて提出し、各自めあてをもって授業に参加しましょう。 ★自分の体力に応じた課題を持ち、日頃から生活の中に運動を取り入れましょう。また、運動・スポーツに関する情報を収集し、興味・関心を高めましょう。 ★各種目の特性や技術、ルール等はステップアップ中学体育で調べ、予習して授業に臨みましょう。
------	---

評価方法	【関心・意欲・態度】①活動状況観察 ②学習シート・レポート 【思考・判断】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ④学期末テスト 【技能】①活動状況観察 ③実技テスト 【知識・理解】②学習シート ④学期末テスト
------	---

教 科	技術・家庭	科 目	技術	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	新編新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート（新学社）						

学習目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	4編 情報に関する技術 第1章 コンピュータと情報通信ネットワーク 第2章 デジタル作品の設計・制作 第3章 プログラムによる計測・制御	1 コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知る。 2 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知る。 3 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えることができる。 4 メディアの特徴と利用方法を知り、製作品の設計ができる。 5 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること。 6 コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知る。 7 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが制作できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	第4章 情報に関する技術の評価・活用 3編 生物育成に関する技術 第1章 生物を育てる技術の特徴 ①生物を育てる技術について知ろう ② 植物を育てる技術を知ろう	8 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えることができる。 1 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知る。 2 生物の育成に関する技術の適切な評価・活用について考えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	10月より家庭科を学習する。		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	副教材の技術ノートで要点をおさえながら授業を行っていきます。パソコンを使って課題に取り組み、提出してもらうので、提出を忘れないようにしてください。
------	---

評価方法	①生活や技術への関心・意欲・態度…よりよい社会を築くために、情報に関する技術や生物育成に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 生物育成に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。 ②生活を工夫し創造する能力…よりよい社会を築くために、情報に関する技術や生物育成に関する技術を適切に評価し活用している。 ③生活の技能…ワードやエクセルなどのコンピュータの基本操作を行うことができるか。 ④知識・理解…コンピュータにおける基本的な情報処理の仕組みと情報通信ネットワークにおける安全な情報利用の利用についての知識を身に付け、情報に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。 以上4つの観点について、日頃の授業や技術ノート、課題などの学習状況及び定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	--

教 科	技術・家庭	科 目	家庭	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート 家庭分野						

学習目標	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	前半は 技術分野を学習します。10月から家庭分野です。		
2 学 期	家庭分野のガイダンス 1 編 私たちの食生活 1 章 食生活と栄養 2 章 献立作りと食品の選択 3 章 調理と文化 ○りんごの皮むきテスト	・小学校の学びの振り返りと中学3年間で学ぶことの見通しを持つ。 ・自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。 ・栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について理解する。 ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知る。 ・食品の品質を見分け、用途に応じて選択しながら、中学生の1日分の献立を考える。 ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具などの適切な管理ができるようになる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	○和食弁当（魚と野菜の調理） ○洋食弁当（肉と野菜の調理） 2 編 私たちの衣生活と住生活 2 章 住生活と自立 ○生活の課題と実践 ○学んだことを発表しよう	・基礎的な日常食の調理ができるようになる。 ・家庭の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 ・家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を考える。 ・住生活の学習に関心を持ち、課題をもって住生活について工夫し、計画を立てて実践する。 ・発表の機会を持つことで自薦の成果や課題を明確にする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努めるようにしましょう。 各課題は基本的には学校内で行う。課題の提出については期限を守りましょう。 実習に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全に、かつ協力して進めましょう。
------	--

評価方法	評価は次のような観点で、様々な角度から総合的に判断する。 ○生活や技術への関心・意欲・態度 ・授業態度（落ち着いた態度で参加し、よく聞き、よく発表しているか） ・宿題、提出物（期限までに提出できたか）、ノート・プリント（確実に記入されているか） ・自己評価、総合評価（正しく評価できたか） ○生活を工夫し創造する能力 ・レポート・計画（課題に着実に取り組み、工夫したレポート・計画になっているか） ・発表（自分で考え、自分なりに考えた発表をしているか） ・作品（自分なりに工夫した、生活に役立つ作品を制作することができたか） ○生活の技術 ・作品（製作に着実に取り組み、最後まで丁寧に仕上げたか） ・実技テスト（課題を確実に達成できたか、上手に正しく道具が扱えるか） ・発表（聞いている人にわかりやすい発表ができたか） ○生活や技術についての知識・理解 ・ペーパーテスト（身につけておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか）
------	---

教 科	外国語	科 目	英語	学 年	1	類 型	
単位数	4	教科書	NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition1				
副教材	中学必修テキスト中学1年英語， 中学実力練成αスタンダード英語1年， トーク・アンド・トーク・ライト Book1 ， Active Phonics						

学習目標	・簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。 ・簡単な文や指示を理解することができる。 ・簡単な文を使って話したり、質問をしたりすることができる。 ・簡単な文やメモを書くことができる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	・ Lesson 1 I am Tanaka Kumi ・ Lesson 2 My school ・ Lesson 3 I like soccer ・ Project①自己紹介をしよう	・ Be 動詞（肯定、疑問、否定）、This / That is ～.（肯定、疑問、否定）、What is this?、一般動詞（肯定、疑問、否定）、What do you have ～? の習得。 ・ クラスの友人に自分のよさが伝わるような表現を学ぶ。	□ □ □ □ □ □
2 学期	・ Lesson 4 Field Trip ・ Lesson 5 Our New Friend ・ Lesson 6 My Family ・ Project②友達にインタビューをしよう	・ 複数形、How many～?、命令文、疑問詞、人称代名詞、3人称単数現在形（肯定、疑問、否定）の習得。 ・ インタビューをして友達の紹介文を作るため、質問の仕方や書き方を学ぶ。	□ □ □ □ □ □
3 学期	・ Lesson 7 Sports for Everyone ・ Lesson 8 School Life in the USA ・ Lesson 9 Four Seasons ・ Project③大切なものを紹介しよう	・ 助動詞 can（肯定、疑問、否定）、現在進行形（肯定、疑問、否定）、過去形《一般動詞》（肯定、疑問、否定）の習得。 ・ 絵や写真を見せながら、自分にとって大切なものを Show & Tell で紹介する。	□ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業では、言語の理解・習熟・応用のバランスを考えて単元ごとに技能を高めます。復習として中学必修テキスト、中学実力練成αスタンダード等を用いて既習事項の徹底を図ります。また、小テストや単元テスト等を実施してスモールステップを実践します。
------	---

評価方法	①関心・意欲・態度…コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 ②表現…外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。 ③理解…外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。 ④知識・理解…外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。
------	---

	以上4つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。・授業や課題などの学習状況及び Lesson ごと的小テストや定期考査などをもとにして総合的に評価する。 ・パフォーマンステストでは、英語での表現能力を評価する。
--	---